

911.3
八
5

俳諧歌雙兒百首

五



3

俳諧歌雙兒百首五卷

撰者四方歌垣真顔

刈萱

庄内

真牛

京

真恵美

桑折

千

金

益

山形

頼

松

素

吉原

年

龜

顔

根

貴

白川

房

琴富

人

島人

文

裏微加花三
裏微加花二

かううの迎むよみをあべたゞとやあふまれて行ひ立つ
かううのあくまう面ひて是れどもあらがうふくまゆ

きりくそ様のちよどきすくすよおれとわくる宿のかううや

裏微

かううをとくとくすくは、父舟へとぞどううつてあく

絶ひの聲つゝせくともうとつゆうかゆの風をまし

わきの袖をみよばせで裏のひよこづ刈萱をまつ

吉原

素

かくかくやわんよゑくわくすくをむすりけうやの聲

裏微加花一

かくかく仰げてあやらめん拂つづきもぐに草原

白川

房

琴富

人

島人

目録

秋風不私見く東洋ひ葉ゑで弦び一音のかうや

旅人ふまく三毛をあてうせあふうもんのびのかうや

山

宋折

文

翁主のひまん遠慮がる川畫はやく事車を引かむと
新主をゆりけあれくちゆをなしかうと人あすすん
來つておれく處のこゝにとどけられぬの川わ

半田

金

捕

老婦すが孤児すら秋風ふそりつて川とくらむ

仙臺

真富貴

根人

川草と茶葉よま北極よせくからくわねくおせがり

長崎

規矩住

月夜すかく月のきりをばまくらるるの處をもくしん

仙臺

千

金沢

福

川草と茶葉よま北極よせくからくわねくおせがり

庄内

牛

富

川草と茶葉よま北極よせくからくわねくおせがり

千住

真

直

川草と茶葉よま北極よせくからくわねくおせがり

水戸

蛙

金沢

川草と茶葉よま北極よせくからくわねくおせがり

駒

良

唐

川草と茶葉よま北極よせくからくわねくおせがり

琴

人

成

川草と茶葉よま北極よせくからくわねくおせがり

丸

真

惠美

川草と茶葉よま北極よせくからくわねくおせがり

宿

良

材

川草と茶葉よま北極よせくからくわねくおせがり

大道

成

川草と茶葉よま北極よせくからくわねくおせがり

暖

若城

川草と茶葉よま北極よせくからくわねくおせがり

甲府

久

磨

川草と茶葉よま北極よせくからくわねくおせがり

秋

御

成

川草と茶葉よま北極よせくからくわねくおせがり

月

好

垣

川草と茶葉よま北極よせくからくわねくおせがり

洲

水戸

川草と茶葉よま北極よせくからくわねくおせがり

長

好

成

裏被加花三

蘭

かくのうきのまほすうじ行うをきあらふをぞこく

樂眠

聖とおはなせぬよし行うをうじ行うをきあらふをぞこく

大門

行くとおはなせぬよし行うをうじ行うをきあらふをぞこく

川名

やくせんかまくらうかくまくらうかくまくらうか

東条

行くとおはなせぬよし行うをうじ行うをきあらふをぞこく

水戸

やくせんかまくらうかくまくらうかくまくらうか

愛

行くとおはなせぬよし行うをうじ行うをきあらふをぞこく

石

やくせんかまくらうかくまくらうかくまくらうか

萩原

行くとおはなせぬよし行うをうじ行うをきあらふをぞこく

市川

やくせんかまくらうかくまくらうかくまくらうか

金

行くとおはなせぬよし行うをうじ行うをきあらふをぞこく

朝

行くとおはなせぬよし行うをうじ行うをきあらふをぞこく

藤

行くとおはなせぬよし行うをうじ行うをきあらふをぞこく

麻生

行くとおはなせぬよし行うをうじ行うをきあらふをぞこく

新庄

行くとおはなせぬよし行うをうじ行うをきあらふをぞこく

栗法師

行くとおはなせぬよし行うをうじ行うをきあらふをぞこく

大山

行くとおはなせぬよし行うをうじ行うをきあらふをぞこく

仙臺

行くとおはなせぬよし行うをうじ行うをきあらふをぞこく

成

行くとおはなせぬよし行うをうじ行うをきあらふをぞこく

根

行くとおはなせぬよし行うをうじ行うをきあらふをぞこく

高

行くとおはなせぬよし行うをうじ行うをきあらふをぞこく

八幡

行くとおはなせぬよし行うをうじ行うをきあらふをぞこく

甲斐川

行くとおはなせぬよし行うをうじ行うをきあらふをぞこく

曾代人

行くとおはなせぬよし行うをうじ行うをきあらふをぞこく

河

長岡

貢

江戸

雪舟

様うきのせとよがくらへも行はんとてと種種や

川名

健雄

き人の心をふとむかへばとあが居よるるをうるや

荒井

真

まぬのひきしやくの種種とすへとまことわらでに

三崎

益

みふきいあふゆせどもお同うに候どもひらけや

盛

涌

種種ほふぐまむきをそびだされどもとあじしま

光

種種ほふぐまむきをそびだされどもとあじしま

千住

種種ほふぐまむきをそびだされどもとあじしま

街

種種ほふぐまむきをそびだされどもとあじしま

米

種種ほふぐまむきをそびだされどもとあじしま

次

種種ほふぐまむきをそびだされどもとあじしま

真

種種ほふぐまむきをそびだされどもとあじしま

亀

種種ほふぐまむきをそびだされどもとあじしま

貞

種種ほふぐまむきをそびだされどもとあじしま

根

種種ほふぐまむきをそびだされどもとあじしま

大

種種ほふぐまむきをそびだされどもとあじしま

麻生

種種ほふぐまむきをそびだされどもとあじしま

歌志久

種種ほふぐまむきをそびだされどもとあじしま

家

種種ほふぐまむきをそびだされどもとあじしま

庄内

種種ほふぐまむきをそびだされどもとあじしま

出羽住

種種ほふぐまむきをそびだされどもとあじしま

長岡

種種ほふぐまむきをそびだされどもとあじしま

山

種種ほふぐまむきをそびだされどもとあじしま

入

種種ほふぐまむきをそびだされどもとあじしま

駿府

種種ほふぐまむきをそびだされどもとあじしま

久

種種ほふぐまむきをそびだされどもとあじしま

竹岡

種種ほふぐまむきをそびだされどもとあじしま

道

種種ほふぐまむきをそびだされどもとあじしま

水

種種ほふぐまむきをそびだされどもとあじしま

高井

種種ほふぐまむきをそびだされどもとあじしま

魚

種種ほふぐまむきをそびだされどもとあじしま

兼

種種ほふぐまむきをそびだされどもとあじしま

入船

種種ほふぐまむきをそびだされどもとあじしま

江戸

入船

目妙加莊

来折

輝

秋風かきく葉を拂ひて叶ふるすも秋の花

全

御

にすみを拂ひて紫後の風の秋へはふむくつやわまん

水戸

金

さきむ十サキとゆめりく軒をう徳はるほのりあ

諫方

吳

秋葉をどく麻もあせぬ疾れど秋の野をぢうりに

長岡

鷹

めらぎく葉を秋ハモモトやづれけめなひめん

福岡

洲

秋葉をどく麻もあせぬ疾れど秋の野をぢうりに

千

風

めらぎく葉を秋の風のよもやまめくやうに

山

輝

めのりの風のよもやまめくやうに

來折

廣

めのりの風のよもやまめくやうに

全

文

めのりの風のよもやまめくやうに

来折

主

めのりの風のよもやまめくやうに

山

入

めのりの風のよもやまめくやうに

文

穎

めのりの風のよもやまめくやうに

来折

人

めのりの風のよもやまめくやうに

山

根

めのりの風のよもやまめくやうに

山形

直

めのりの風のよもやまめくやうに

川谷

根

めのりの風のよもやまめくやうに

呑

安

めのりの風のよもやまめくやうに

大

年

めのりの風のよもやまめくやうに

路

安

めのりの風のよもやまめくやうに

福

和

めのりの風のよもやまめくやうに

富

盛

めのりの風のよもやまめくやうに

柴

丸

めのりの風のよもやまめくやうに

鳥

喜

めのりの風のよもやまめくやうに

真

牛

庄内

名古屋

橘五園

汝が年老きをぞおありて、聲つはんぢとれど、猶ぞの。吾丸
風きよぐ、庭の秋不單れくも、秋を拂ふ事なし。駒成人
は後、秋の聲の第もかとす。されど、あれをせば、駒成人
を聴ふ間未見ゆ也。秋の聲のわき野その聲を拂ふ。
おちたとからむかへり側ゑむとくと、第の秋の声。引
出ちあたとからむかへり側ゑむとくとくと、第の秋の声。

雁

波那細

ちの波那細をあらむ。波那の聲ありづ。初序ののみ

駿府

人

裏微加花三
三の声の聲ありづ。と引ひて、居がまきく。猶秀

高成

人

三の声の聲ありづ。と引ひて、居がまきく。千穎
裏微加花二
二の声の聲ありづ。と引ひて、居がまきく。千穎

高成

人

裏微加花一
一の声の聲ありづ。と引ひて、居がまきく。千穎
裏微加花二
二の声の聲ありづ。と引ひて、居がまきく。千穎

高成

人

裏微加花一
一の声の聲ありづ。と引ひて、居がまきく。千穎
裏微加花二
二の声の聲ありづ。と引ひて、居がまきく。千穎

高成

人

月の私をもひあふむわうねむとくとそ、ハ根ふみ駿府直

莊内

人

立木の枝を折りて、うす月とえむへまうふゆう初序

生間

人

多めにともひまくひすくとくとくふうれく、居がまきく。眞芳

牧布施

人

初序の声がハ根ふみ駿府直と、うす月とえむへまうふゆう初序

仙基

人

厚ぐいハ根ふみ駿府直とえむへまうふゆう初序

脚代風

人

ゆうととれがやまくを消く行かの、あらや、まのとくに

庄内

人

まくの聲が、うす月とえむへまうふゆう初序

元

人

うす月とえむへまうふゆう初序

天神林

人

まくの聲が、うす月とえむへまうふゆう初序

保

人

まくの聲が、うす月とえむへまうふゆう初序

真春

人

まくの聲が、うす月とえむへまうふゆう初序

大門

人

まくの聲が、うす月とえむへまうふゆう初序

巢

人

まくの聲が、うす月とえむへまうふゆう初序

大門

人

金と年一えの対ドやきうが若年金ひきを獨りがひ
日根加花一
五里をうれ財の儀あめぬれてもまくまくうがひ
詠方
波をふあくたる年、よみか死九度もじの月の出来
伊
秋うびと秋よ葉りの約束をうがひすまく度どひ此文
甲
黒
秋風をまくねうけく度を度ゆふわづまく御度の如ひ
拔井
等
度うく度よ度を度を度の度を度ありて度うく度
甲
真
度うく度よ度を度を度の度を度ありて度うく度
二
水
度うく度よ度を度を度の度を度ありて度うく度
信
枝
度うく度よ度を度を度の度を度ありて度うく度
甲
水戸
度うく度よ度を度を度の度を度ありて度うく度
庄内
度うく度よ度を度を度の度を度ありて度うく度
吾
度うく度よ度を度を度の度を度ありて度うく度
南新保
度うく度よ度を度を度の度を度ありて度うく度
下
度うく度よ度を度を度の度を度ありて度うく度
長岡
度うく度よ度を度を度の度を度ありて度うく度
山
度うく度よ度を度を度の度を度ありて度うく度
入
度うく度よ度を度を度の度を度ありて度うく度
門
度うく度よ度を度を度の度を度ありて度うく度
綱
度うく度よ度を度を度の度を度ありて度うく度
歌
度うく度よ度を度を度の度を度ありて度うく度
志
度うく度よ度を度を度の度を度ありて度うく度
久

おうへやああれぬ秋風と極く度ばれずまうん
麻生
度うく度よ度を度を度の度を度ありて度うく度
大音
度うく度よ度を度を度の度を度ありて度うく度
葉井
度うく度よ度を度を度の度を度ありて度うく度
金
度うく度よ度を度を度の度を度ありて度うく度
文
度うく度よ度を度を度の度を度ありて度うく度
メ
度うく度よ度を度を度の度を度ありて度うく度
高根
度うく度よ度を度を度の度を度ありて度うく度
仙基
度うく度よ度を度を度の度を度ありて度うく度
盛岡
度うく度よ度を度を度の度を度ありて度うく度
名古屋
度うく度よ度を度を度の度を度ありて度うく度
老影
度うく度よ度を度を度の度を度ありて度うく度
岩城
度うく度よ度を度を度の度を度ありて度うく度
波
度うく度よ度を度を度の度を度ありて度うく度
樂
度うく度よ度を度を度の度を度ありて度うく度
着山
度うく度よ度を度を度の度を度ありて度うく度
古行
度うく度よ度を度を度の度を度ありて度うく度
庄内
度うく度よ度を度を度の度を度ありて度うく度
虫基
度うく度よ度を度を度の度を度ありて度うく度
賀

テスヘアカシモタタキのミドリムシナシナリキタマ

山形

吉ヘキヤ枝枝の木を折るも半分も残すあらわに初冬の秋

駿府

木トモ財財の木の仲間初冬の木の仲間

山

日のうきの木を折るも残すあらわに初冬の木の仲間

松本新田

黄葉ふく日の木を折るも残すあらわに初冬の木の仲間

市川

日のうきの木を折るも残すあらわに初冬の木の仲間

大坂

一と木を折るも残す木を折るも残すあらわに初冬の木の仲間

金

木を折るも残す木を折るも残すあらわに初冬の木の仲間

水戸

木を折るも残す木を折るも残すあらわに初冬の木の仲間

葉

木を折るも残す木を折るも残すあらわに初冬の木の仲間

名古屋

木を折るも残す木を折るも残すあらわに初冬の木の仲間

真

木を折るも残す木を折るも残すあらわに初冬の木の仲間

唐

木を折るも残す木を折るも残すあらわに初冬の木の仲間

出羽住

木を折るも残す木を折るも残すあらわに初冬の木の仲間

吉丸

木を折るも残す木を折るも残すあらわに初冬の木の仲間

長岡

木を折るも残す木を折るも残すあらわに初冬の木の仲間

全

木を折るも残す木を折るも残すあらわに初冬の木の仲間

出羽住

木を折るも残す木を折るも残すあらわに初冬の木の仲間

全

木を折るも残す木を折るも残すあらわに初冬の木の仲間

富津山

木を折るも残す木を折るも残すあらわに初冬の木の仲間

直

木を折るも残す木を折るも残すあらわに初冬の木の仲間

良村

木を折るも残す木を折るも残すあらわに初冬の木の仲間

入成

木を折るも残す木を折るも残すあらわに初冬の木の仲間

入船

鹿

主守祖門大市川今井松宜大坂金水戸葉名古屋真

秋の木のうや木葉のうれきのうとつてん
花の木をつねに寒風あら風ハ寒風もも涙ひせり

真方
荳垣

わく一木あられどもがくもとてひわくや木のまん

春
松本新田

まく木あられ木の角もゆくそ葉うらまく葉うえ

名古屋
庄内

まく木あられ風あら風もやめ木のまくのまく

真
宜

まく木あられ木の角もゆくそ葉うらまく葉うえ

春
松本新田

まく木あられ木の角もゆくそ葉うらまく葉うえ

救
保原

まく木あられ木の角もゆくそ葉うらまく葉うえ

山形
脚

まく木あられ木の角もゆくそ葉うらまく葉うえ

松代
美

まく木あられ木の角もゆくそ葉うらまく葉うえ

花
前橋

まく木あられ木の角もゆくそ葉うらまく葉うえ

花
氣仙沼

まく木あられ木の角もゆくそ葉うらまく葉うえ

貢
仙基

まく木あられ木の角もゆくそ葉うらまく葉うえ

常
岡部

まく木あられ木の角もゆくそ葉うらまく葉うらまく葉う

神代
伊戸

まく木あられ木の角もゆくそ葉うらまく葉うらまく葉う

常
市川

まく木あられ木の角もゆくそ葉うらまく葉うらまく葉う

神代
室田

まく木あられ木の角もゆくそ葉うらまく葉うらまく葉う

常
白川

まく木あられ木の角もゆくそ葉うらまく葉うらまく葉う

繁
新潟

まく木あられ木の角もゆくそ葉うらまく葉うらまく葉う

全
三浦

まく木あられ木の角もゆくそ葉うらまく葉うらまく葉う

豆
成

まく木あられ木の角もゆくそ葉うらまく葉うらまく葉う

房
成

まく木あられ木の角もゆくそ葉うらまく葉うらまく葉う

荳
荳

荳
荳

庄内

少佐のうちあらわを喰は鶴湯湯とて解て浴き 真牛
たまくねの枝のまほりてうすにゆるはるのうち 大門

大ひの枝くまほりて晴れをまほりあらぬまほり鶴と 名古屋

岩の峰さかのとおめつ松のわせをなす京 橋五園

西の峰くまほりて晴れをまほり松の上をのほりとまほり 鳴音

日妙如花一 めほりとまほりあらはやまほりせぐく風ふきで松のまほり 市川

西の峰くまほりて晴れをまほり松の上をのほりとまほり 常道

日妙如花一 めほりとまほりあらはやまほりせぐく風ふきで松のまほり 山形

西の峰くまほりて晴れをまほり松の上をのほりとまほり 市川

西の峰くまほりて晴れをまほり松の上をのほりとまほり 常住

日妙如花一 めほりとまほりあらはやまほりせぐく風ふきで松の上をのほりとまほり 今井

西の峰くまほりて晴れをまほり松の上をのほりとまほり 見積

日妙如花一 めほりとまほりあらはやまほりせぐく風ふきで松の上をのほりとまほり 井津

西の峰くまほりて晴れをまほり松の上をのほりとまほり 大坂

西の峰くまほりて晴れをまほり松の上をのほりとまほり 梅好

西の峰くまほりて晴れをまほり松の上をのほりとまほり 印西

西の峰くまほりて晴れをまほり松の上をのほりとまほり 群住

西の峰くまほりて晴れをまほり松の上をのほりとまほり 亀成

日妙

麻生

歌舞守

西の峰くまほりて晴れをまほり松の上をのほりとまほり 金 歌志久

西の峰くまほりて晴れをまほり松の上をのほりとまほり 神田

西の峰くまほりて晴れをまほり松の上をのほりとまほり 南新保

西の峰くまほりて晴れをまほり松の上をのほりとまほり 雪政

西の峰くまほりて晴れをまほり松の上をのほりとまほり 向原

西の峰くまほりて晴れをまほり松の上をのほりとまほり 亭

西の峰くまほりて晴れをまほり松の上をのほりとまほり 文

西の峰くまほりて晴れをまほり松の上をのほりとまほり 御

西の峰くまほりて晴れをまほり松の上をのほりとまほり 謙方

西の峰くまほりて晴れをまほり松の上をのほりとまほり 捣

西の峰くまほりて晴れをまほり松の上をのほりとまほり 大山

頂

秀州

森

蔭

四五九

盛岡

むきの朝霧あさぎの御事をばくふかひの御座の事 実衆
善あれんわきひかる爲不因ひて後立がんに伏せたる 吉田 千善

山巻のむひふきひき廣のまふこみてぬま湯もとア

水戸

懸一くちあうたまくらは懐のわふねむれりやくの御茶

伊戸

席のむちあうたまくらは懐のわふねむれりやくの御茶

春俊

席のむちあうたまくらは懐のわふねむれりやくの御茶

月勝

蒸すおもとおもと蒸の風でりふまむさくふ泉のまくわへ

全

蒸すおもとおもと蒸の風でりふまむさくふ泉のまくわへ

稻荷山

山の井とひとと細くきくわのめれどあひきうひどあまく蒸

松代

人きれりあらの男の席へ坐むぬとあがむ法のあまくよ

山形

人きれりあらの男の席へ坐むぬとあがむ法のあまくよ

行殿

秋の井とひとと細くきくわのめれどあひきうひどあまく蒸

美酒

秋の井とひとと細くきくわのめれどあひきうひどあまく蒸

高麗

秋の井とひとと細くきくわのめれどあひきうひどあまく蒸

九里

秋の井とひとと細くきくわのめれどあひきうひどあまく蒸

常道

秋の井とひとと細くきくわのめれどあひきうひどあまく蒸

津

秋の井とひとと細くきくわのめれどあひきうひどあまく蒸

市川

秋の井とひとと細くきくわのめれどあひきうひどあまく蒸

高麗

秋の井とひとと細くきくわのめれどあひきうひどあまく蒸

秋

秋の井とひとと細くきくわのめれどあひきうひどあまく蒸

穗

秋の井とひとと細くきくわのめれどあひきうひどあまく蒸

常道

秋の井とひとと細くきくわのめれどあひきうひどあまく蒸

大里

秋の井とひとと細くきくわのめれどあひきうひどあまく蒸

美酒

秋の井とひとと細くきくわのめれどあひきうひどあまく蒸

及志岡

秋の井とひとと細くきくわのめれどあひきうひどあまく蒸

相撲見

秋の井とひとと細くきくわのめれどあひきうひどあまく蒸

摩訶園

秋の井とひとと細くきくわのめれどあひきうひどあまく蒸

庄内

秋の井とひとと細くきくわのめれどあひきうひどあまく蒸

桃主

秋の井とひとと細くきくわのめれどあひきうひどあまく蒸

全

秋の井とひとと細くきくわのめれどあひきうひどあまく蒸

煉房

秋の井とひとと細くきくわのめれどあひきうひどあまく蒸

喜

秋の井とひとと細くきくわのめれどあひきうひどあまく蒸

元季

秋の井とひとと細くきくわのめれどあひきうひどあまく蒸

魚人

三井ひがみあわづへつた根のほどのとひる花のまよ

高橋一あやかさくらむね蒸、角のあらわいをせせ

秋のよせきのまこととせしむすけ身ものこよのく

麻生

歌志久

つまみあらすあらす男禁、れんのうやわびとせすあらす

松

俊

あらすあらすのくだけのほりとせす秋ねまを様ふうげに

雅禾雄

まちうふほりとせすくのまことだぐののふみくわれ

麻生

秋志久

佛さふまうのまめの男あらすけだまくはなほり

二喜

くやくはやめをめの風むらうめやうをゆうけをもと

真亀

露

波那細

吾

裏加花三

諫方

ゆべ

金

え

伏柳

ぎ

素

鏡

直

ひ

家

か

庄内

鏡

九

ひ

主

鏡

成

鏡

外

鏡

成

鏡

外

鏡

成

鏡

外

鏡

成

鏡

外

鏡

成

鏡

外

鏡

成

鏡

外

鏡

成

鏡

外

鏡

成

鏡

成

鏡

成

南新保

伊達雪

えくのきのうりゆくまがまめ六のをもとをも。ま
まのあすかのあらぬをまめにあらまみれにけむ。竹
ゆくかでけば根うりたるてとむるをのたる。
筆のすふづくやうどりも書てきのこも化す。金

伏黒金

の恩義くわちれどもあらせんべあたあとぞらへ
よくゆくオをわらへ芋のまへ山芋をもやうらへ
多切のさうのまうけはせん。甚だ萩のよだ枝葉
皆のからぬ雁やもせをやかつうもの。名古屋

来折金

多切のさうのまうけはせん。甚だ萩のよだ枝葉
皆のからぬ雁やもせをやかつうもの。名古屋

諫方真

うのひそけり絲の香をもふ。ほんがく。秋の像
萩枝枝をそぞくせん。秋の像をもとめ。岩城鬼

岩城鬼

萩枝枝をそぞくせん。秋の像をもとめ。岩城鬼

福岡真酒躬

萩枝枝をそぞくせん。秋の像をもとめ。岩城鬼

和奇山風

萩枝枝をそぞくせん。秋の像をもとめ。岩城鬼

前橋花

萩枝枝をそぞくせん。秋の像をもとめ。岩城鬼

倉科音

萩枝枝をそぞくせん。秋の像をもとめ。岩城鬼

水戸長

萩枝枝をそぞくせん。秋の像をもとめ。岩城鬼

岐成美垣成

萩枝枝をそぞくせん。秋の像をもとめ。岩城鬼
多くのあまの神ふさがくら。鷺がさせ。野邊
芋のまへ山芋をも。庄内豆元

三浦音

萩枝枝をそぞくせん。秋の像をもとめ。岩城鬼

高畠千枝

萩枝枝をそぞくせん。秋の像をもとめ。岩城鬼

松代水雄哉

萩枝枝をそぞくせん。秋の像をもとめ。岩城鬼

水津新田宜

萩枝枝をそぞくせん。秋の像をもとめ。岩城鬼

千住廣庭

萩枝枝をそぞくせん。秋の像をもとめ。岩城鬼

大門

霧

裏微加花二

はくのうの聲へまゆれども晴らる。晴らる。岩城
高畠

高畠
千人
入
八幡
枝
垣
目妙
般
の體をもて遊むて後つてふくらむ川旁
雪かぬとたゞに身方の心かぬるゆく旅人
かよひやのねがわちしてり悲ハ身方おつむ川て
ゆふふまうされば佛きハ孫まゝま。松の枝の上
すまうあづる身方ハ世界に傀儡師をうりとせをある
あくあくまと秋の聲ともあるハ身方の身ゆくそく
身方の身ゆくそくとせすて絶うめの身身方ぢり
身ゆくそくのあとえせぞりゆと之處の身身方
身の身ゆく身ゆくのあくびゆくさん身身方
身ゆく身ゆくのあくびゆくさん身身方
身ゆく身ゆくのあくびゆくさん身身方

高畠
千人
入
八幡
枝
垣
仁能
大立目
金
岩城
新庄
刈谷
吐
安
岐阜
駿河
甲市川
大
路

藤原
藏人
新弓
忠
鋤田
千豆
子目
星
仙臺
佐久中村
多賀安
鳥取
嶺
庄内
其
河
成
鳥
歌志久
麻生
枝

裏微加花二

日の朝とまくあはれのまづきとるもおひづら島人君

ああくよおひせとしよおひまよりせくやう秋の日

柿人
裏微加花二

初きとあゆみほほへ先へ琴ふかぐるおと松

岩城長人
よぐ人のゆきがくおのれをあわせあわせあわせすも下

美源市とよのあがくおほびてひよしきよあびせじねの

押うけのあふ客とおほほちやむほんうり権

福島三千春

権のあふまもとおもとおもとおもとおもとおもとおもと

さよのあふあれどおもとあふもとおもとおもとおもと

裏微加花二おもとおもとおもとおもとおもとおもとおもと

おもとおもとおもとおもとおもとおもとおもとおもとおもと

金代

春則

甲富貴

丸道

山長

岩城

馬

三千春

福島

春入

群子

菊量

長岡

山來

金誠方

住

甲市川

今井

丸

大坂

金真

丸

青梅

丸

深見

庄外

吾全

吾九

日のゆゑと並れて、もむれの入出の経あやまん 全 春 樹

ゆうり秋一もむれのあはれとわらひのよ

大門 真直

くるをえまつてまくはるをまわれば海うらうの経の

升 庄内 壺

月妙加花二 もめうきの香のむすめをめぐらすのあじやうくま

春 成 樹

月妙加花一 もめうきの香のむすめをめぐらすのあじやうくま

升 全 春

歌の音が一音のゆゑのむすめをめぐらすの

印 西 飲

歌の音が一音のゆゑのむすめをめぐらすの

名古屋 仁熊 百合九

歌の音が一音のゆゑのむすめをめぐらすの

金 沢 飲

歌の音が一音のゆゑのむすめをめぐらすの

印 西 飲

歌の音が一音のゆゑのむすめをめぐらすの

名古屋 仁熊 百合九

歌の音が一音のゆゑのむすめをめぐらすの

天山 大山 栗法師

歌の音が一音のゆゑのむすめをめぐらすの

盛岡 岩城 春 繁門

歌の音が一音のゆゑのむすめをめぐらすの

仙臺 春 繁門

歌の音が一音のゆゑのむすめをめぐらすの

坂阜 岩城 春 繁門

歌の音が一音のゆゑのむすめをめぐらすの

朝 倉

様田 道丸

酒をうらやましくて御まつりをとどめむもよしとすもよし 権

金井 真寿門

翁をさばきりあらゆる事へと無事のじよねづる

今立

於歸えとをかわすがゆめむのむすと翁すとほれう

全

むまほにあまもはまほく後りしハ須をうれのあそひうむ

露丸

ちうせとくまもとくおののうへあそれとくもとく

藤沢 請

ゑのうせやうりむねむねまへ日よ向ひま秋の夜

宜

翁ゆきあ翁の董むきまされたあけがのゆく一ね歸ゆく

松代 秀

細枝のさんのみぐらやまびすれまじ乃看絶

伊勢井

すく同のまくまくとろゆふよまくまく細い

飯

静くまくこうりひ草巻本萬まく入らぬくゆく

子

あかきの種やまくまくとくまくまく花の花の花

福島

われば咲きがくば咲くづくのくく葉ふ槿乃だ

梅

おまくまくうきはくはくはくはくはくはくはくはくはく

田沼

生翁のうりのうりのうりのうりのうりのうりのうり

高成

あ形くふけりせは咲くひとと聲くまく鹿乃お詫

金沢 全

秋のりハ經くとくや被ぐまよたまくまくと咲く絶

飲居

甚まきのまくまくとくまくまく後りあも咲く絶のむ

仙台 音

うあまくまくまくまくまくまくまくまくまくまくまく

御犬風

まをねせばゆくとたゞみ神垣へまくまく咲く鹿の絶

大

翁あく咲く絶のむと謂くまむと後のみまくめく

水戸

あくふくうくまくまくまくまくまくまくまくまくまく

幸

翁のまくめくとくまくまくまくまくまくまくまくまく

秀

あくふくうくまくまくまくまくまくまくまくまくまく

良材

翁のまくめくとくまくまくまくまくまくまくまくまく

成

北のよき人をもとより白の毛、毛みのくらむ駒の毛 真龜
駒於トむへる駒の毛の毛とむち秋の夕駒 将雄
松柏小松毛もとあぐま葉の毛ともと一とつ木の枝や椎栗 大道

駒迎

裏微加花三

駒迎

麻生

歌志久

あひ枝の葉ふ日が暮く駒へてたゞく入まし駒の駒 摘
裏微加花二
立人ふ後もや花の葉ぬんあくふまく葉内つ駒 枝 成
わづ枝の葉の葉角駒ありし葉あれや初のうがく駒 未
裏微
清のをくまゆく駒井もとをくらむとくをなむる 駒
駒ゆく駒も駒よどりも駒入むる駒の駒

歌謡方

歌志久

駒ゆく駒も駒よどりも駒入むる駒の駒

駒

駒

お駒の葉の葉角駒ありし葉あれや初のうがく駒 全
裏微加花一
立人ふ後もや花の葉ぬんあくふまく葉内つ駒 暖
立人ふ後もや花の葉ぬんあくふまく葉内つ駒 九
立人ふ後もや花の葉ぬんあくふまく葉内つ駒 千佳
立人ふ後もや花の葉ぬんあくふまく葉内つ駒 街

駒

駒

駒

駒

立人ふ後もや花の葉ぬんあくふまく葉内つ駒 大門

駒

駒

駒の毛駒をもとむりれりにも喜りしむるの駒 空寐
立人ふ後もや花の葉ぬんあくふまく葉内つ駒 真龜
立人ふ後もや花の葉ぬんあくふまく葉内つ駒 千佳
立人ふ後もや花の葉ぬんあくふまく葉内つ駒 光貞
立人ふ後もや花の葉ぬんあくふまく葉内つ駒 大門
立人ふ後もや花の葉ぬんあくふまく葉内つ駒 岩城
立人ふ後もや花の葉ぬんあくふまく葉内つ駒 真酒躬
立人ふ後もや花の葉ぬんあくふまく葉内つ駒 善咲
立人ふ後もや花の葉ぬんあくふまく葉内つ駒 真酒躬
立人ふ後もや花の葉ぬんあくふまく葉内つ駒 吉田
立人ふ後もや花の葉ぬんあくふまく葉内つ駒 山形
立人ふ後もや花の葉ぬんあくふまく葉内つ駒 軽舟
立人ふ後もや花の葉ぬんあくふまく葉内つ駒 歌方
立人ふ後もや花の葉ぬんあくふまく葉内つ駒 照道

相川

夏

海

東洋をとむの日ふかうとくへるに宿やりらん
あひのよめのぬと引ひむをへて社が根のゆうと
月のきみおたまうだりとひりうへられど豹のもへー 大道

月

成那袖 今やうの新と梅はくよあごとすのやこのみのこーの月 島人

庄内

金

駿府

直

家

文

裏櫻加花三 ひよのたぬくよひとくわふきく病きる者物の月

来山

真

諏方

秋

梅の脚の代をせしめよりの枝よ男みとあまき
さゑみとふをもむ。秋の秋ハ月のゆめと山歌りきく

京

真恵美

水戸

葉

あくとー那船法師ハ今入一月のゆめと山歌りきく
もみの歌れたや、ゆきの霜みれとみゆの月の秋

寅上

秋

牧布施

真

梅の脚の代をせしめよりの枝よ男みとあまき
さゑみとふをもむ。秋の秋ハ月のゆめと山歌りきく
あくとー那船法師ハ今入一月のゆめと山歌りきく
もみの歌れたや、ゆきの霜みれとみゆの月の秋

長房

裏櫻加花三

稀人のぬきとみの日ゆのきよくむゆよゆの 暑 柿 人 高根

全

松木新田

宜

松代

秀

竹内

雄

すゞぐくわづれくせんとすくひとくにをりくともとくにをくそくにをく
あれとくわづれくせんとすくひとくにをりくともとくにをくそくにをく
あくとくわづれくせんとすくひとくにをりくともとくにをくそくにをく

道

道

むしーだくふくのゆふじとくをとひてねくあるまん 内 近

全

規

鷹すばなくぬ拂くあひまみのまぶされやあほの月拂

鳴

音

風とくさくめりくわあくとくつれば人のむとかくの

星

雄

かのねのねくぬ拂ふこわれる月と夜あくとくとくは波

全

諏方

星

人形のえりのぬとての腰によおがじ月のうつ男 星彦

真貫

人

家上
央

きのまほようかくはふきの風やす葉のひしん
皆人のむらるれやもひんのくじのねり

りゆゑあきのれを拂ひとせやえの海中

駿府

猶秀

ま波の郎の郎は御侍うら仰せう達とがうす

岐阜

駿山人

の宿ひそめつたの娘とつむはせむるい地

全

真竹

丘陵の木とがめのあかくの風やりの地

京

裏恵美

をしがくらぬとせん月のあいわくめを

全

山の宿とくわくとやられとせん月をせん月

津

信聲井

山の宿ハまくあらゆま月のれをあらゆまん

歌門

山の宿とくわくとやられとせん月をせん月

十字街

山の宿とくわくとやられとせん月をせん月

一馬

山の宿とくわくとやられとせん月をせん月

仙臺

大園

山の宿とくわくとやられとせん月をせん月

浅代九

山の宿とくわくとやられとせん月をせん月

深見

代九

山の宿とくわくとやられとせん月をせん月

丸

山の宿とくわくとやられとせん月をせん月

出羽住

山の宿とくわくとやられとせん月をせん月

全

壺成

山の宿とくわくとやられとせん月をせん月

直

直

山の宿とくわくとやられとせん月をせん月

吉原

真

山の宿とくわくとやられとせん月をせん月

牧布施

駒

山の宿とくわくとやられとせん月をせん月

三井

厚

山の宿とくわくとやられとせん月をせん月

麻生

歌志久

山の宿とくわくとやられとせん月をせん月

照道

雅承雄

山の宿とくわくとやられとせん月をせん月

鳴音

詠方

少郎よ連ばハセアセミう風未だ秋未かに葉をせし

全月好

新まよ日ゆめ人未だ秋未かに葉をせし

半田名古屋

山風未か人未だ秋未かに葉をせし

左原真富貴

人未だ秋未か人未だ秋未かに葉をせし

若岸住

山風未か人未だ秋未かに葉をせし

愛

人未だ秋未か人未だ秋未かに葉をせし

柿

人未だ秋未か人未だ秋未かに葉をせし

更級

人未だ秋未か人未だ秋未かに葉をせし

天童美

人未だ秋未か人未だ秋未かに葉をせし

小舟山

人未だ秋未か人未だ秋未かに葉をせし

穂

人未だ秋未か人未だ秋未かに葉をせし

千積

人未だ秋未か人未だ秋未かに葉をせし

駿府真青

人未だ秋未か人未だ秋未かに葉をせし

山形鳥

人未だ秋未か人未だ秋未かに葉をせし

岐阜駒秀

人未だ秋未か人未だ秋未かに葉をせし

駒井獨秀

人未だ秋未か人未だ秋未かに葉をせし

京真惠美

人未だ秋未か人未だ秋未かに葉をせし

木島

人未だ秋未か人未だ秋未かに葉をせし

坂井歌雄

人未だ秋未か人未だ秋未かに葉をせし

小平歌

人未だ秋未か人未だ秋未かに葉をせし

芦田花

人未だ秋未か人未だ秋未かに葉をせし

草元

人未だ秋未か人未だ秋未かに葉をせし

門丸九

人未だ秋未か人未だ秋未かに葉をせし

式部文

人未だ秋未か人未だ秋未かに葉をせし

八幡院

人未だ秋未か人未だ秋未かに葉をせし

全月好

全

ラ

御氣を海あとすくはれの御まきの隠せりとまされ
むるのうへるおもひをひきの隠せりとまされ

馬寄

三井

原侍のねらはねらはおまづまをめかへつゆめり
ねらはねらはねらはねらはねらはねらはねらは

若

前橋

垣

ねらはねらはねらはねらはねらはねらはねらは
ねらはねらはねらはねらはねらはねらはねらは

花

市川

代門

ねらはねらはねらはねらはねらはねらはねらは
ねらはねらはねらはねらはねらはねらはねらは

大

今井

守

ねらはねらはねらはねらはねらはねらはねらは
ねらはねらはねらはねらはねらはねらはねらは

春

松本新田

春

ねらはねらはねらはねらはねらはねらはねらは
ねらはねらはねらはねらはねらはねらはねらは

甲府

大

盛

ねらはねらはねらはねらはねらはねらはねらは
ねらはねらはねらはねらはねらはねらはねらは

鳥取

市川

廣

ねらはねらはねらはねらはねらはねらはねらは
ねらはねらはねらはねらはねらはねらはねらは

松本新田

今井

守

ねらはねらはねらはねらはねらはねらはねらは
ねらはねらはねらはねらはねらはねらはねらは

牛

牛

春

星入條影居樹直顔内近人鳴音吉原喜丸
大里摩訶園由喜丸

庄内

吉

丸

九

葉

主廣田 橋五園 安弘 呼谷 博安

全

主

約あひへひうすかわうまつて日をもとめのまきみれ全

名古屋

廣

第もがくがくさんなまくはるかに一月を守てまう

弘

庭

れそくをもかのまの月の日れは運きゆう根ともかえ
うれやくもあたれふ根ひめしも焼き月の根わらに
天の橋ふるの達の波もとてゆるまきとあきに 三井
船もくはみえりぬゆきとむすめとくみうりん 全
月も夜も耳せぢきねと經きゆうふきとむすめハ
歌をの傳伝度よりうえ病よほとひうびき月のゆき
告もくうるぬまかううおまくす櫻のあいだ月をまかん 松成
け秋もまくうまぬ病むきとくめく嫁く月をわさん 疾臣
御とせどり酒わきとタト日をかぶ入くみつきとぞ 枝成
文科の月すうまきうれむて持られゆきうまきの野松 未

四五

廿三

たまごくふゆうだくわ後つ枝庇ふくらむと月のとく

雅乐椎

森あふもあぬまやうかくんはくら門の傍ら青全
むさのまくわくわくのまくはくの聲をもく

村上

永

連もせどももぐくまゆのまくはくの聲をもく

秋

成

きの声あつやう月ハくまの間の吹めうるかくと

全

数

至科の続うも付しゆゆうもく萬くれぬ月の聲

家

風

詠くふゆうくわ文ひの因みえうる月乃を 船丸

裏歎加花三

舊年立春

市ちへりふばのまくはくと年のかくはくと年のかくはく

誠方

真

世経一とふせありまくも事とあくくる年の事人

真

石

ひうげやくじ年かくまの事とハキとうげぞく

裏歎加花二

真似君

まくふをせんの事とむせんのはじめとそつたくがく年

新庄

真

市川

河

まのまゝものがあると今へ爲のあさうども年の尾

真直

吉柳の肩につくぬきの肉よもじく、鹿の脚び枝
日妙加花三

狸塚
持雄

日妙加花三
ちをひきのうあめぐらふねにねりやまのれとて高麗人

成月

けひとそよがと一お室のとおとよまとすみく

好葉

まめぞりともうれとつねなどにのとまきとまきとわれ

門松の因あそかみそつまく松並みのくびゆうのん

月喜

のうじふまきりとあくごくおもむるおどりくぬ

辛の因みまき年をきりとぎくせまきあると門松の因み

佛名

波名細
波名細く波名を唱る佛の名をすかばらを坐せん

眞似学
岩城暖

裏微加花三
裏微加花三
穂を何うひよだづけかわくとさづき佛とく

詠方

唱て佛の名をつうしゆて度くしゆけすゆく

庄内

裏極毛ぞ能く佛も佛のためのまことを能く能く

二豆

度く佛の名をとむればからくとえくかきのむハ傳く

喜

度く佛の名をとむればからくとえくかきのむハ傳く

鷺丸

よひだく三かくまきせ取引公まくは性のうか利あうん

雅承雄

ほくらうきうのまくは出わつたうは佛の法なりとく

千類

がくくあくをる佛の法を垂れハ空くもわくまく

善直

目妙加花三
たかくわくをとくまくは空くも佛の法を垂て降りし

枝成

度く佛の法をとくまくは空くも佛の法を垂て降りし

關垣

度く佛の法をとくまくは空くも佛の法を垂て降りし

養

度く佛の法をとくまくは空くも佛の法を垂て降りし

宋

度く佛の法をとくまくは空くも佛の法を垂て降りし

鷺丸

度く佛の法をとくまくは空くも佛の法を垂て降りし

貢調

裏微加花三
裏微加花三
度く佛の法をとくまくは空くも佛の法を垂て降りし

出羽住

度く佛の法をとくまくは空くも佛の法を垂て降りし

仁熊

甲府

度く佛の法をとくまくは空くも佛の法を垂て降りし

水

裏微

虎の内へあらへうかくあらはまふとくともハルをまー

駿府直

鐵子ト真のきぬハ里へやまもどをまくせり

樂

馬代と真からむて様のミ民の意ニテよわくまく

牧布施

日めぐらのりと連べば車のよぎにとけます

駒

真物よりと様のそもれよもすう網を落成のを

凌

都あらは代とちみるのよくとまくし直りのあく

臣

上ゆかくそまく真とつまねみ続つまもゆまうを

千

鶯 鶯

波那袖

伊戸塘

とおりや切くもそれぬものやうびひもあれど於きを

御津水

裏微加毛三
緑の葉さかがいと拂ひきのりさわりくとまうじゆみ

波布地

波うきのきの種戸はくそふみうれつまくがれまく

駒

ちうくほくまの陰うきまくそつまくまくのひまくの毛衣

庄内

緑はくもとくとくがまを落葉のすくや理史とくん

仁熊真

裏微はくをのれおううきうとうの川あそとまく

村牛

庄内

人哉

于鬼門

閻垣

舍

つうなまなあれぬゑのあらうらまなまのひのつひ

乘折

柳のこむはは序伏せまくやあもくとせむおー海の

駿方

つごとかればうへの聲と鳴てふをくくらうの海のを

小

大枝

キテあくまもとぞりとそそがまくねねとよむくま

李

ひももむくのやうはもくとくまくのまくとくまく

金

ひめうら腰のまくとくをよせくはははははははは

名古屋

あらゆら腰のまくとくをよせくはははははははは

吳

あらゆら腰のまくとくをよせくはははははははは

山形

あらゆら腰のまくとくをよせくはははははははは

虫

あらゆら腰のまくとくをよせくはははははははは

庄内

あらゆら腰のまくとくをよせくはははははははは

刈谷

あらゆら腰のまくとくをよせくはははははははは

春

あらゆら腰のまくとくをよせくはははははははは

甲斐州

あらゆら腰のまくとくをよせくはははははははは

道

あらゆら腰のまくとくをよせくはははははははは

常

あらゆら腰のまくとくをよせくはははははははは

道

安原

常

をやせをあれぬ中も木川のあらまつれとれを
みの中ふかまつてひそばれどわざひくめをす。

三浦

鷺

圓ゆるまへ並ておはしまとせし能事の移轍の池
つまゆの池がたすくよるハ陽き殊春と秋ふふり

長丸

鶴

年くわゆるにあまやくあつたるをとく
かくまゆるゆくうのほよおきのあらまやくうさん

良材

食

波那細

岩城

旅宿をうねよの金毛經さふせばハリシテ食ひてを
ちのゆくやまき食ひむむその御とかよせをゆ
裏微加花三
ゆのせんわのまくらをかくとまが被と紙のやをゑ
物のをとれ食ひぬくとまはせじくとせをち
裏微加花二
ほのくらをあさしやれ食あまの様萬の様のあ
りて後のうをあれせしや食つたくされ中やあられ
裏微
りて私を吃ふ事とせうきうきのうとせをバ 真似子君

甲戸

北方

川音

衆名

道文

庄内

丸

吾

駒

直

富津

春

若山

健

福

養

まほせふむおがのまほせふまほく不因ひとがくれぬ便食う船
理ゆの灰のまほくせうかとまほつやかあらまの舟
うまゆるあうあまのわの食理ゆよりむだくうまう船
ばくちゆくまゆとむ食うまほ水をあせゆどあ
福ゆのうと腰やおなづかせんがの袖ふきをまほ食
目ゆ一やくはそれとまほのうまくまほ乃小食
ゆうことせゆまくとまほのうまくまほ乃小食
真葛
馬戸
北方
川音
衆名
道文
庄内
丸
吾
駒
直
富津
春
若山
健
福
養

禁名

とりよしすか年既のむかせをまかせとちぢりをな
摺芦のやまくらるるうきあわせられかみのまくが

龍門丸

薪

裏微加花二

薪

裏微

庄内

剛

壺

見葉花一

吉原

神津素

日妙

半田

水

日妙

向川原

一

日妙

貴

橘

日妙

諫方

樂

日妙

仙臺

眠

日妙

成丸

埴

日妙

安藝

音

日妙

松代

鳴

日妙

信義

哉

日妙

河鳥

九

日妙

成丸

故

日妙

人

成

日妙

樹

成

五節

裏微加花三

裏微加花ニモシテ是を每の御事と云れば要舟の船と年限

空寂材雄文安成頼

松代秀

庄内藤次請

三浦

豆

請

請

請

請

請

請

請

請

請

請

請

請

請

請

請

請

請

請

請

請

請

請

請

請

請

請

請

請

請

請

請

請

請

落葉

裏微加花三

裏微加花ニモシテ是を每の御事と云れば要舟の船と年限

新庄

群子君

甲市川

三津成

伊戸亘

龍門

薄墨

向川原

金

友文

政人

起

人

文

山

麻生虎

長岡

暖

龍門

風

丸

雪

友

文

落葉

裏微加花三

裏微加花ニモシテ是を每の御事と云れば要舟の船と年限

新庄

群子君

甲市川

三津成

伊戸亘

龍門

薄墨

向川原

金

友文

政人

起

人

文

山

麻生虎

長岡

暖

龍門

風

丸

雪

友

文

新編

半田

音

鶴柴

市川

通

印西

常

道

野邊

津

時

飯

市川

道

清

庄

道

仙沼

半田

真

鈴

きも共商のぶひちじとものもとあよこすう
よのけなはづくむれに相ひまつてもとくを下かひて
あひ種の心のゆゑうちもとをもと人揚ひまづま
吹く風也や破れさん風のようかまくみの風
まされく拂をとふ拂この落ましの色のものま
葉衣とがれかくおじわげの風をすくめわいとせ
山巒の風のひととまくみの風もむく落葉一葉
風もるすま連れやとまは葉の花とせりとせ
あはれとま連れやとまは山巒まくの風あそとあれ
川か木さきれりとまは山巒まくの風あそとあれ
えくやうあるまはきめりとまわせらどくかく
空のとまきぐあるまはきめりとまわせらどく
あるまの空のとまきめりとまわせらどくかく
秋のまつりの空の葉もととまきめりとまわせらどく
成るまつりの空の葉もととまきめりとまわせらどく

双五
九

風ありとあるその物ふく葉の種めりとまわせらどく
夢のまきめりとまわせらどくまのとまわせらどく
山巒ふく葉とまわせらどく風のまきめりとまわせらどく 全
野行幸

波那細

印西

庄内

福

水戸

邦

真

道

仙臺

葉

成

成

数

臣

石獨
未佛
於鬼門
一馬
寐
成
内
大道

裏微
出れやの夢のまきめりとまわせらどく
目娘加花一
大馬ハ雪の風やふきうりとまわせらどく
まきめりとまわせらどくあくびの聲やたまのまき
御みのたまくとまわせらどくあくびの聲とまわせ
物のまきめりとまわせらどく湯うながとまわせ
大をふつとまわせらどく聲やとまわせらどく
あるまのとまわせらどくのとまわせらどく

氣仙沼
貢
室
全
道
真顔

俳諧歌雙兒百首五卷終

佛說般若經



